

2021年04月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2021年04月03日(土) 10:00~16:30

2. 開催場所
アイテックインターナショナル(オンサイト)
Teamsを用いてのリモート(オンライン)

3. 会員参加者<敬称略>S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

大見	L	牧野	L	横尾	L	杉浦	L	三浦	L	城越	L	合田	L	伊藤	S
舟山	書	出島	L	福田	L	水田	欠	山中	L	小峰	L	山口(展)	欠	黒田	欠
鈴木	L	古谷	L	池田	L	岡本専務	L								
李	休	河合	休	奥村	休	小西	休	佐藤	休	庄内	L	山口(直)	休	中山	L

4. 研究会内容

1) 輪講: ロバスト設計のための機能性評価 第15章 (担当: 合田、サポート: 城越)

- ・14章では音響製品の機能性を、出力と周波数の2種類の計測特性で評価する方法を学んだが、15章では理論式がある場合ではあるが、複素数を用いる方法を紹介している。
- ・複素数を用いインピーダンスの安定性を評価することで、ひとつのSN比で音響製品の機能性を評価することができる。
- ・複素平面を極形式で表す方法についても、同様にひとつのSN比で評価できるとしている。

2) RQES発表内容 MT法、貢献度に使用する直交表検出力の研究: 牧野

- ・MT法で貢献度を算出するにあたり、直交表を使用する。直交表には、直積型の2n型、ウィリアムソン型、ペイリー型がある。今回3種類の直交表に、割り付ける数を、各直交表に割り付けられる全数、半分より多い、半分より少ない項目を割り付け、検出感度を比較した研究結果を報告した。今年の研究発表大会で報告する。

3) RQES発表内容 MT法、RT法、標準化誤圧法、APRT法 異常判別性能比較: 出島

MTシステムの手法比較の為に単位空間の主成分を用いた。その結果以下の二点が判明した。

- ①誤圧法、RT法は低次側主成分の異常検出に優れる。
 - ②MT法、APRT法は高次側主成分の異常検出に優れる。
- 複数手法を併用ことで抜け漏れがより少ない異常検出が可能となる。

4) RQES研究会紹介確認: 合田

- ・6月の大会では中部品質工学研究会として、オーガナイズドセッションに参加する。
- ・大会の予稿集にセッションの紹介原稿(合田)と事例研究の原稿(山中さん、小峰さん)を掲載するため、それぞれ原稿を作成済みで、4/9の期限までに事務局に送付予定。
- ・更に発表用の動画資料またはライブ発表用のPPT資料を作成する必要があるが、疑問点もあり事務局に確認する。

次ページへ続く

5) 事務局連絡

- ①今後の事例相談内容確認実施
- ②会計報告実施
- ③サーバー問題発生：伊藤さんから横尾さんに状況を説明し、横尾さんから営業に問い合わせる。
買い替えや代替案も視野に入れる。
- ④4月第二週までに会費請求書到着予定
- ⑤2021年度講演者検討実施
- ⑥分科会は昨今の環境から実施が困難なため一旦休止
- ⑦今後の他団体様との協力関係について検討実施
- ⑧2021年度発表事例検討実施
- ⑨2021年度入会者、休会者、脱会者確認実施
- ⑩RQESオーガナイズドセッションについて検討実施
5月度にはRQES発表事例について確認を実施する

以 上